

集合学習における協調型 Web ブラウジング システムの構築

山根木浩平*, 斎藤 博昭*

A Collaborative Web Browsing System for Collective Learning

Kohei YAMANEKI*, Hiroaki SAITO*

1. 本研究の位置付け

近年 Web を利用した情報教育が活発になってきている。しかし、教育現場で Web を活用するには問題もある。たとえば、Web 上には主観的な情報や客観的な情報、信憑性のある情報や根拠のない嘘やデマなど様々な情報が混在しており、学習者はそれらの情報を取捨選択し、適切な情報を取り出さなければならぬ。また、情報を検索する際には検索サイトを用いるのが一般的だが、適切なキーワードを入力しないと有用なページにたどりつくことさえできない。

こうした中、文部科学省は学習指導要領⁽¹⁾の中で情報を適切に収集・判断・発信する能力を養うことを一つの目標として掲げている。そこで本研究では、集合学習を対象に他者と協力しながら Web ブラウジングを行うツールを提案する。ツールを用いることで効率よい情報収集を支援し、判断する能力を養わせることを目的とする。

1.1 対象とする学習者と学習テーマ

本システムの利用対象者としては高校生や大学生を想定している。能力としては、パソコンの基本的な動作（マウスを利用する、キーボードを利用して文字を入力する）が行える程度を想定している。授業としては Web を利用した調べ学習とする。調べ学習とは、課題に対し自らが主体的に情報を収集し、積極的に学

習を進めていく学習形態である。

テーマとしては少年犯罪の実名報道の是非や、著作権保護期間延長についての是非のような、明確な答えが存在せず、様々な議論がなされているディベートに近いテーマを対象とする。

1.2 理想的な Web 調べ学習

調べ学習の目的は、自分で主体的に調べ、考え、発表することにある。Web 調べ学習では、このうちの調べるプロセスに Web を利用した形態のことである。

判断能力が乏しく、Web の情報を絶対と思ってしまう学習者は、調べた結果を自分で考えず、ページの情報をそのまま鵜のみにしてしまうことがある。これを解決するためには、特定の情報のみを閲覧するのではなく、自身で多くのページを閲覧し、主体的に判断し情報を獲得することが必要となる。

一方、自分で調べることが原則ではあるが、Web の調べ学習では情報量が多すぎ、有益な情報にたどり着けないこともある。これは判断能力だけの問題ではない。一人で調べるには限界もあり、また非効率である。そこで、他の学習者と情報を共有し利用することも必要となる。Web 調べ学習には自分で幅広く、かつ効率良く情報を収集し判断することと、自分で見つけられなかったページを共有することの二つをバランス良く行うことが理想である。

本研究では、情報を収集し互いに共有する手法とし

* 慶應義塾大学大学院理工学研究科 (Graduate School of Science and Technology, Keio University)

受付日：2007年3月9日；再受付日：2007年10月6日；採録日：2007年12月24日